

# 芝浦一丁目地区 まちづくり 未来ビジョン

令和7年(2025年)3月

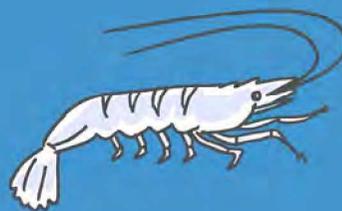
芝浦一丁目地区まちづくり協議会

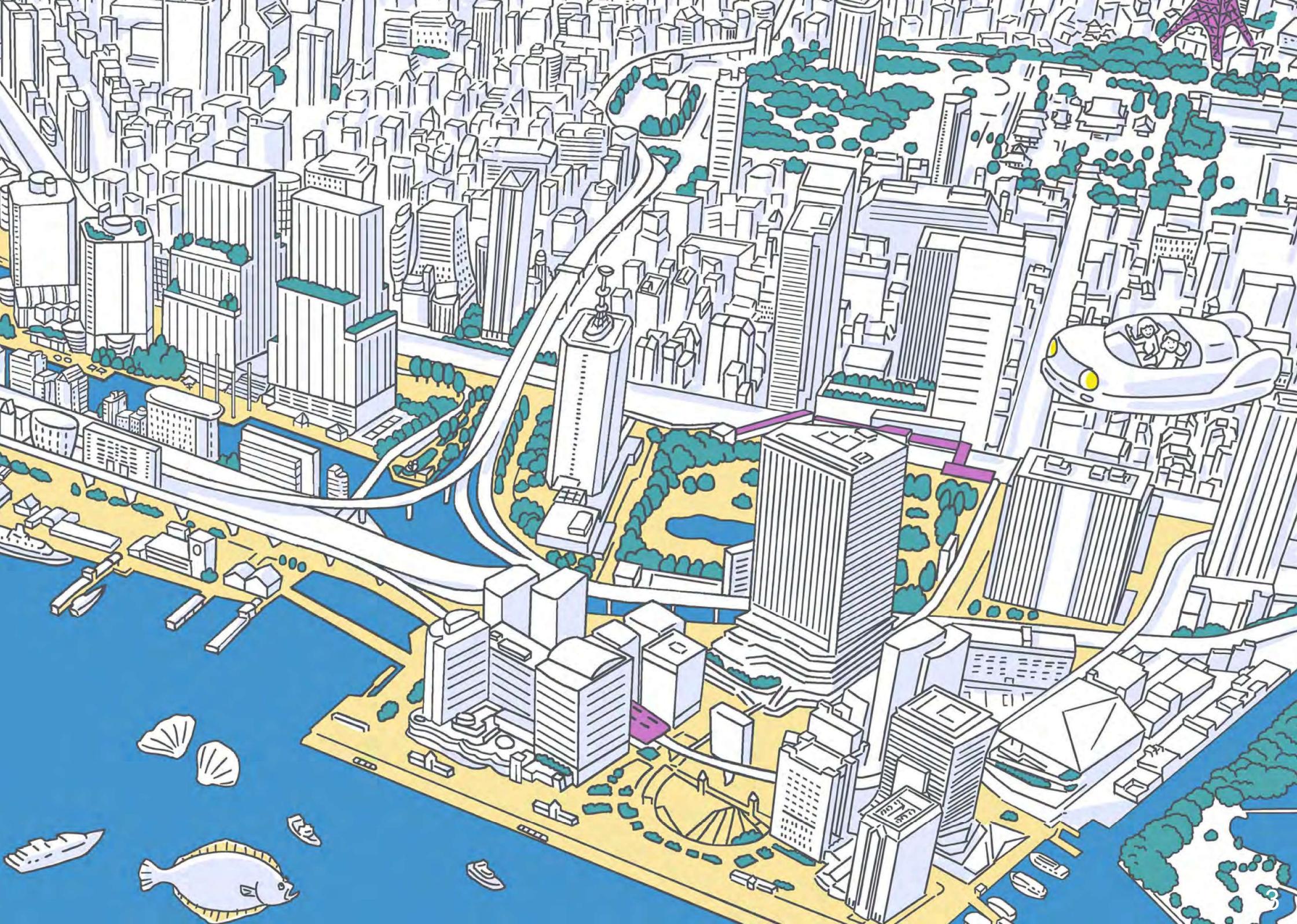




# 芝浦一丁目地区まちづくり 未来ビジョンとは？

芝浦のまちには、住宅もオフィスも商業施設もあり、  
いろいろな人がいろいろな目的で集い、日々を過ごしています。  
まちに暮らす人、働く人、訪れる人…みんなが思い思いに過ごせるのはどんなまちだろう。  
5年後、10年後、そして30年後、どんなまちになっていたら素敵だろうか、ワクワクするだろうか…。  
そんな問いについてみんなの声を集め、みんなで対話を重ね、みんなで作ったのが、  
ここに示す芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョンです。  
まちは、一歩ずつ、そして着実に、ビジョンの実現に向けて前進していきます。





#1 芝浦ってどんなまち？

Chapter. 1 芝浦について

東京都港区の湾岸エリアに位置する運河のまち、芝浦。古くは風光明媚な海辺のまちとして漁業と観光で栄え、運河の整備と埋め立てと共にと産業が振興しました。運河のある景色は今も住民から愛されています。昭和から平成にかけては花街やディスコといった文化も栄えました。現在は、JR・東京モノレール・ゆりかもめと陸上交通に加え、水上交通のターミナルである日の出頭を有する、陸

・海・空の交通利便性が高いエリアです。近年では大規模マンションの建設などが進んで人口は増加傾向にあり、子どもの数も増えて2022年には港区立芝浜小学校も開校しました。企業等のオフィスが多数あるのも特徴で、平日はワーカーの多いエリアでもあります。

芝浦の地形



芝浦 海岸2・3丁目

緑は多い？ ※2021年現在 ※出典：港区みどりの実態調査（第10次）報告書

このエリアは東京湾の埋立によって形成されているため、運河が多く、水面の面積が大きいです。また、ひとつひとつの街区の規模が大きいため、まとまった面積規模の緑地が多いことが特徴です。



海・運河が多く水辺に囲まれている



人口はどのくらい？

60,067人

※2025年2月現在 ※出典：港区住民基本台帳

子どもの数は？

8,893人

※0～14歳(日本人) ※2025年1月現在 ※出典：港区住民基本台帳



オフィスワーカーの数は？

232,411人

※2021年6月現在 ※東京都の統計 令和3年経済センサス-活動調査報告より引用

企業も多い芝浦。平日はワーカーの姿も多く、平日と週末とまちの雰囲気が変わるのも特徴です。



## #1 芝浦ってどんなまち？

### Chapter. 2 「BLUE FRONT SHIBAURA」について

芝浦一丁目地区では、約10年の期間をかけて浜松町ビルディングの建替事業である「BLUE FRONT SHIBAURA(芝浦プロジェクト)」が進行中です。ツインタワーの建設に加えて、水辺や緑にも親しめる屋外空間も整備されます。

2019年には芝浦プロジェクトの関連事業として、日の出ふ頭を人々が集いにぎわう水辺空間・舟運拠点とするため「Hi-NODE」①が竣工しました。2025年には浜松町駅と芝浦エリアをつなぐ「GREENWALK」②③が開通し、区立新浜公園④が再整備されるなど、人と水と緑が共生できる場が整備されました。

このような地域資源や屋外空間を活用し、地域コミュニティの活性化に寄与する活動を行うため、芝浦プロジェクトの事業者により「一般社団法人芝浦エリアマネジメント」が設立されました。



#### 一般社団法人芝浦エリアマネジメントとは？

▶野村不動産株式会社と東日本旅客鉄道株式会社の2社共同で設立されました。

#### 主な事業

- (1) 地域資源の利活用に関する事業
- (2) 地域における広告およびイベント・PR 事業
- (3) 防災および防犯活動に関する事業
- (4) 協議会等の事務局運営事業

#### 「BLUE FRONT SHIBAURA」敷地周辺地図



#### 水辺の屋外空間



① 2019年竣工 Hi-NODE



2031年竣工予定 (仮)セントラルプラザ・水上テラス

#### 緑豊かな屋外空間



② 2025年竣工 GREENWALK



③ 2025年竣工 GREENWALK



④ 2025年竣工 港区立新浜公園

#1 芝浦ってどんなまち？

Chapter. 3 芝浦一丁目地区まちづくり協議会について

芝浦プロジェクトの立ち上げを機に、2021年に町会や地域関係者、行政とともに「芝浦一丁目地区まちづくり協議会」が設立されました。まちづくり活動として、回遊性向上と周辺地区との連携、地域資源の魅力向上、地域コミュニティの活性化、防災性の向上に寄与することを目的とし活動をおこなっています。

まちづくり協議会の活動範囲

まちづくり協議会の対象区域は右記の区域とし、当区域の魅力・価値向上につながることから、活動範囲については広く捉え、周辺地域との連携も検討していきます。

- まちづくり協議会の対象区域
- まちづくり協議会の活動区域



芝浦一丁目地区まちづくり協議会

※2025年3月現在

【正会員】(計8者)

- ・芝浦一丁目町会(会長)
- ・海岸二・三丁目町会(副会長)
- ・エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
- ・東京モノレール株式会社
- ・野村不動産株式会社
- ・東日本旅客鉄道株式会社(上記4社理事)
- ・清水建設株式会社(監事)
- ・株式会社ゆりかもめ

【準会員】(計5者)

- ・社会福祉法人恩賜財団母子愛育会  
総合母子保健センター 愛育病院
- ・東京ガス不動産株式会社
- ・森永製菓株式会社
- ・公益財団法人東京都公園協会
- ・公益財団法人港区スポーツ  
ふれあい文化健康財団

【特別会員】(計4者)

- ・港区芝浦港南地区総合支所
- ・港区立芝浜小学校
- ・東京商工会議所 港支部
- ・一般社団法人港区観光協会

計17者

まちづくり協議会の活動の支援・推進

まちづくり協議会の活動の検討・決定

一般社団法人芝浦エリアマネジメント

【正会員】野村不動産株式会社、東日本旅客鉄道株式会社

主な活動内容



地域コミュニティの活性化

地域との連携を深めるため、芝浦運河まつりやこども祭りなどで子ども向けのブースの出店や運営協力を行っています。



教育支援

小学校の授業や高校の課外学習を通じてまちづくりについて学ぶ機会を提供しています。活動で得られた子どもの意見はまちづくりの参考にしています。



清掃活動

安心・安全で美しいまちに保つことを目的に2021年から毎月地域の清掃活動を実施しています。



防災活動

防災に対する意識向上と災害時の連携体制の構築を目指して定期的に防災訓練や防災ワークショップを実施しています。

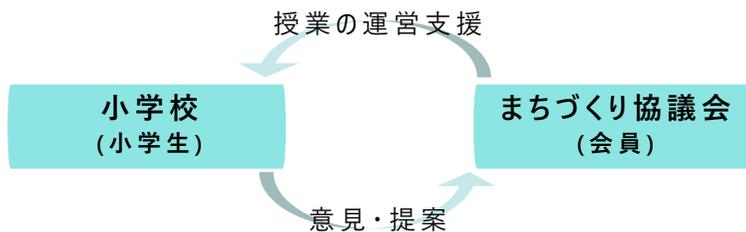
## Chapter. 4 協議会の活動 -教育支援 小学校での総合学習

2021年度から(※)まちづくり協議会では港区の地域事業「SKDs学びのまちプロジェクト」の一環で、芝浦小学校4年生を対象にまちづくりについての授業プログラム「まちをみるめ」を行っています。また2023年度からは芝浜小学校でも行っています。

※2018年度より野村不動産(株)が港区立芝浦小学校で行っている、自社で開発した教育プログラム「まちをみるめ」による出張授業がきっかけとなりました。

### 芝浜小学校 総合的な学習の時間

芝浜小学校では、1年間の総合的な学習の時間で「つくろう新しいまち」をテーマに、子ども達が住んでいる芝浦のまちをもっとよくなるために、住んでいる人にアンケートをとったり取材を行ったりしながら、まちに関する提案・発表を行いました。まちづくり協議会では「まちづくりのプロ」のゲストティーチャーとして授業の支援を行いました。



### 子どもの意見

#### ① まちをみるめの授業 (6~7月)

「車いすの人」「日本語が分からない人」などの他者の視点から学校を観察することで気づきを得る授業を行います。



#### ② 夏休みの宿題 (8月)

芝浦のまちについて「すてきなところ」、「よくなしてほしいところ」を家族とともに書いてもらいました。

宿題の回答内容を分析し、まちに関する意見としてまちづくりの参考にします。



#### ③ 子どもたちによる学習 (9~翌2月)

家族や港区の施設利用者などにインタビューを行い、まちの課題について考え、提案資料にまとめます。

テーマは子供達が自ら考えました。



#### ④ 「まちづくりフェス」での発表 (3月)

2024年度は3クラスの児童が24グループに分かれて発表を行いました。

発表テーマは、環境、交通、自然、イベント、遊び場、ショッピングモール、外国人対応、ゴミ、安全、など多岐にわたりました。



## Chapter. 1 未来ビジョン策定に向けて

2024年度に芝浦一丁目地区まちづくり協議会の活動区域を広げ新たな会員にも参加頂き、芝浦一丁目地区の街の将来像である「未来ビジョン」を定めるための活動をスタートしました。



### 芝浦一丁目地区まちづくり協議会 (エリアプラットフォーム)

※事務局：一般社団法人芝浦エリアマネジメント、芝浦港南地区総合支所

#### 『芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョン』

芝浦での理想の  
過ごし方



陣内 秀信氏  
(法政大学名誉教授)

芝浦らしい  
街のデザイン



篠原 聡子氏  
(日本女子大学学長)

未来に活かす  
芝浦の歴史・文化



太下 義之氏  
(同志社大学教授)

環境に配慮した  
まちづくり



上田 壮一氏  
(一般社団法人  
Think the Earth代表理事)

芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョンは、関連する東京都、港区の上位計画等や地域の特徴や課題、今後の目標を踏まえ、策定しています。未来ビジョンを実行していくことで、これらの計画の目標達成を目指します。

『未来の東京』戦略 version up 2024  
(R6(2024)年)

『未来の東京』の実現に向けた  
重点政策方針2024  
(R6(2024)年)

東京ベイeSGプロジェクト(Version2.0)案  
(R7(2025)年)

公共施設等のライトアップ基本方針  
(H30(2018)年)

運河エリアライトアップ・マスタープラン  
(H30(2018)年)

運河ルネサンス計画 芝浦地区  
(R4(2022)年版)

港区基本計画  
(R5(2023)年度改訂版)

港区基本計画  
～芝浦港南地区版計画書～  
(R5(2023)年度改訂版)

港区まちづくりマスタープラン  
(H29(2017)年)

港区景観計画  
(H27(2015)年度改訂)

港区緑と水の総合計画  
(R3(2021)年)

港区環境基本計画  
(R5(2023)年度改訂版)

関連上位計画を踏まえた将来像・アクションプラン設定

#### 『芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョン』

#### 未来ビジョンとは？

- ▶ 国土交通省が推進する「官民連携まちなか再生推進事業」による、地域の将来像である「未来ビジョン」を定め、自立・自走型でシステム「エリアプラットフォーム」を構築し、実現するための支援を行う事業です。
- ▶ 芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョンは、2024年度の事業として採択されました。

## #2 未来ビジョン検討がスタート

### Chapter 1 未来ビジョン策定に向けて

まちづくり協議会では、以下の4つのテーマでワーキンググループを立ち上げ、専門人材や外部アドバイザーを交えながらワーキングを行いました。各ワーキンググループはワークショップ形式で行われ、まず芝浦の歴史や背景を掘り下げていきました。さらに国内外の事例も学びつつ、これからの芝浦のまちのイメージを描いていながら、未来ビジョンの策定を行いました。

#### STEP 1

##### 情報共有

芝浦の魅力や課題についての理解を深めました。また各施設の見学や体験を行いました。

#### STEP 2

##### 事例の収集

外部アドバイザーのインプットトークや専門人材のアドバイス、また国内外の事例を参考に検討を重ねました。

#### STEP 3

##### ビジョンの検討

各ワーキンググループで出た意見をもとに、ビジョンを検討していきました。

### 活動スケジュールとディスカッションテーマ

#### 芝浦での理想の過ごし方

第1回  
2024  
5.17

- 親水空間の活用アイデア／通り・広場の活用アイデア  
【インプットトーク】陣内秀信氏『水辺空間活用の国内外の事例』
- ナイトクルーズ（屋形船）体験



第2・3回  
2024.6.21  
2024.9.13

- 運河でやってみたいこと
- 芝浦での理想の過ごし方

【活動紹介】  
・芝浦一丁目町会 岡田祥男会長  
「芝浦運河まつり」について  
・港区芝浦港南地区総合支所協働推進課  
ペイエリア活性担当係長堀合竜治氏  
「みずまちプロデュース事業」等について



全体会 2024.10.25

第4回 2024.12.11

第5回 2025.2.13

お披露目会 2025.3.17

#### 芝浦らしい街のデザイン

第2・3回  
2024.6.21  
2024.9.9

- 通り・広場でやってみたいこと
- 芝浦でこれから実現したいイメージ

【インプットトーク】  
・株式会社日建設計 都市・社会基盤部門  
都市基盤計画グループ 都市計画部アソシエイト  
湊太郎氏  
『まちの活性化を目指した公共空間の場づくり』  
・ユイット株式会社 代表取締役 宮下幸子氏  
「プランディングの基本について」

#### 未来に活かす芝浦の歴史・文化

第1回  
2024  
6.6

- 芝浦の歴史・文化で今後のまちづくりに活かしていきたいところ
- 港区立伝統文化交流館の紹介・展示室の見学

第2回  
2024  
9.19

- 芝浦の歴史・文化の中で印象に残ったこと



#### 環境に配慮したまちづくり

第1回  
2024  
6.6

- 芝浦でもやってみたい環境の取り組み

【インプットトーク】  
(株) SHIBAURA HOUSE  
伊東勝氏  
『環境と調和する世界のまちづくり』

第2回  
2024  
9.27

- “ゴミ”をテーマに取り組み上で知りたいこと

【活動紹介】  
港区立エコプラザ館長根川翔子氏  
『港区立エコプラザの事業について』  
【インプットトーク】  
上勝町ゼロ・ウェスト推進員  
藤井園苗氏  
『町民みんなで築いたゼロ・ウェストブランド』



※令和6（2024）年9月以降、以下の通り名称を変更しました。親水空間の活用・魅力アップー芝浦での理想の過ごし方、歩いて楽しい通り・広場づくりー芝浦らしい街のデザイン、芝浦らしい歴史・文化の継承ー未来に活かす芝浦の歴史・文化  
※本ビジョンは現行制度では実現できない内容も含まれており、今後ビジョンの実現にあたっては関係各所との協議が必要となります。

## Chapter. 2 未来ビジョン策定までの論点

### 地域の人たちの声をききました

まちづくり協議会では、芝浦一丁目地区で暮らす人・働く人、地域の小学校の子どもと保護者の声を聞きました。

#### 地域の魅力

芝浜小・芝浦小4年生と保護者 227世帯  
芝浦一丁目働く人・暮らす人 528名

#### ★ステキなところ 地域の魅力

##### 交通利便性のよさ

- ・鉄道やバスなどの交通機関が発達している
- ・歩道が広く歩きやすい

##### 公共施設の充実

- ・公園や図書館、病院などの公共施設が充実している
- ・子育てに必要な施設が充足している

#### ●もっとよくなってほしいところ 地域の課題

##### 飲食店が増えてほしい

- ・昼・夜、カフェ・レストランなど一般的に足りていないとの声
- ・子連れでも入れるカフェ、おしゃれなカフェへのニーズ

##### 商業店舗が増えてほしい

- ・スーパーや日用品などの店舗を望む声が多数
- ・生鮮食料品やパンなどの専門店
- ・衣料品や文房具や雑貨などの物販

##### 水辺などの開放的な環境

- ・身近なところに運河や水辺がある
- ・都心でありながら緑が多い
- ・東京タワーやレインボーブリッジなど夜景がきれい

##### 地域コミュニティへの安心感

- ・治安がよく安心して暮らせる
- ・子育て世帯が多く生活しやすい
- ・イベントやお祭りが沢山ある

##### 運河がきれいになってほしい

- ・運河の水質改善に加え、運河沿いが整備されて欲しいという声も
- ・雨の翌日は運河がにおう
- ・屋外でくつろいだり読書をしたい

##### 地域コミュニティの活性化

- ・現状のコミュニティに不満はないが、世代間交流の機会を望む声も
- ・幅広い世代と関われるイベントがあると良い

### 未来ビジョンワーキングで議論しました

国内外の事例を参考に議論しました。地域の対策案は5つあります。

#### 生活利便性の向上

生活利便施設の拡充  
(店舗・飲食店等)

周辺での開発予定  
(BLUE FRONT SHIBAURA)

#### 地域資源の活用

地域資源の利活用  
(水辺・舟運・歴史)

芝浦らしい歴史文化の  
伝承

活動の担い手育成

#### 回遊性の向上

水辺の歩行空間  
屋外空間の利活用

舟運などを活用した  
短距離モビリティ

#### 環境美化・保全

運河と緑地の  
環境保全・美化

環境を守る自治意識  
の醸成

資源循環への取組

#### 防災対応

災害時の体制構築

平時からの  
コミュニティ醸成

### 芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョン

2050年に向けた芝浦一丁目地区のまちの将来像と4つのテーマを策定しました。

#### みんながつどい、くつろぎ、にぎわう、ひらかれた水辺のまち芝浦

都心でくつろげる心地よい水辺のまち

歴史とともに新しい文化にひらかれたまち

ひとが集いにぎわう明るくひらかれたまち

人々の営みが自然と環境に配慮するエコなまち



# みんながつどい、くつろぎ、にぎわう、 ひらかれた水辺のまち芝浦

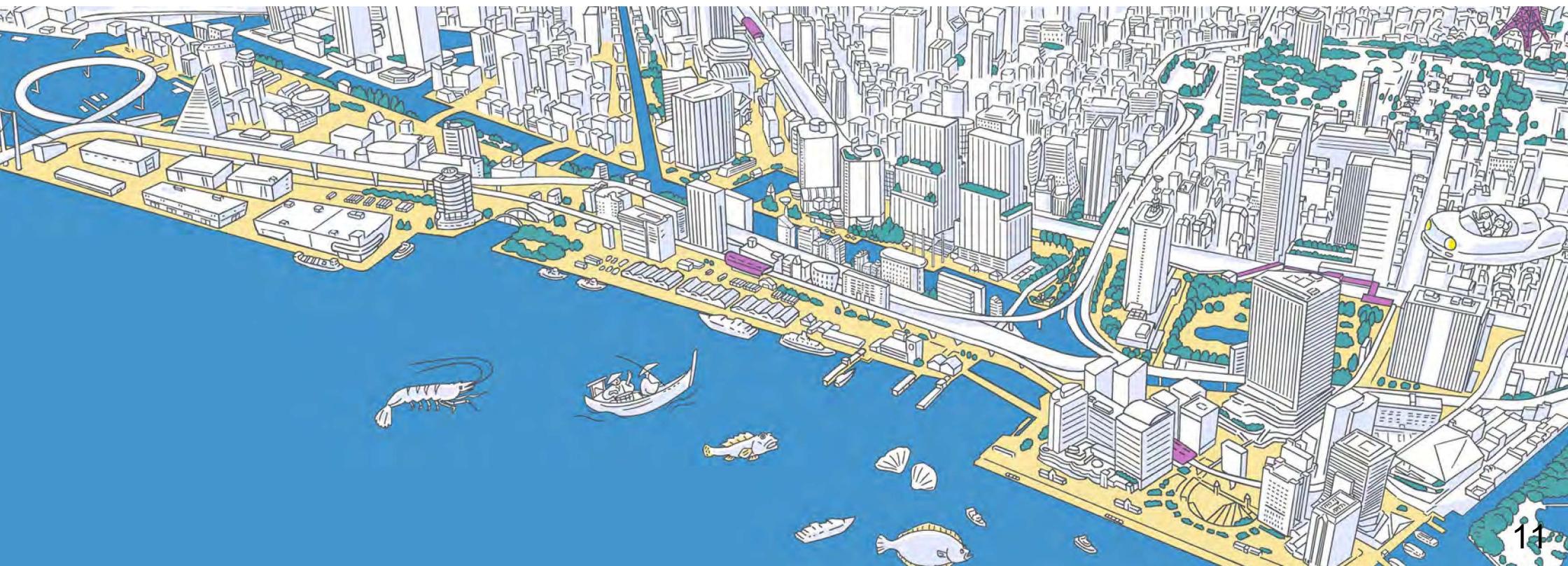
海にひらかれ運河のまちとしてさかえてきた芝浦。

大型複合施設や高層マンションの建設が進み、まちの様相が変わるなか、

まちに根づいた“芝浦らしさ”を活かしながら新しいまちへと生まれ変わろうとしています。

ここに暮らす人も、ここで働く人も、ここを訪れる人も、みんながくつろぎ、にぎわい、楽しめる、

芝浦は、水辺のライフスタイルをより楽しめるまちへ。



Chapter. 1

# 都心でくつろげる 心地よい水辺のまち

運河のまち、海辺のまち芝浦の魅力を最大限に活かし、

青く広がる空と海を眺めながらくつろげる、

都心にいながら、心地のよいまちを目指します。

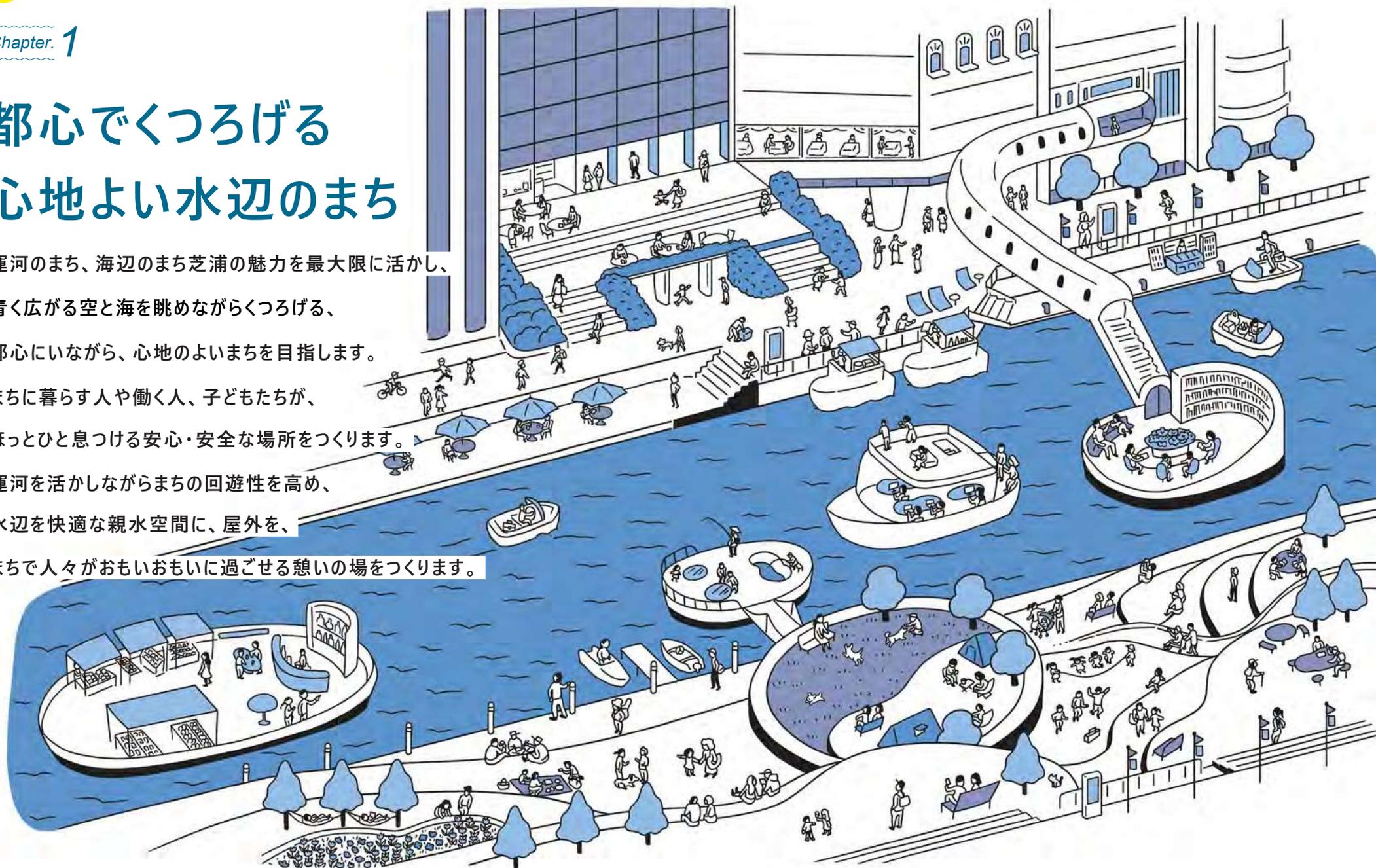
まちに暮らす人や働く人、子どもたちが、

ほっとひと息つける安心・安全な場所をつくれます。

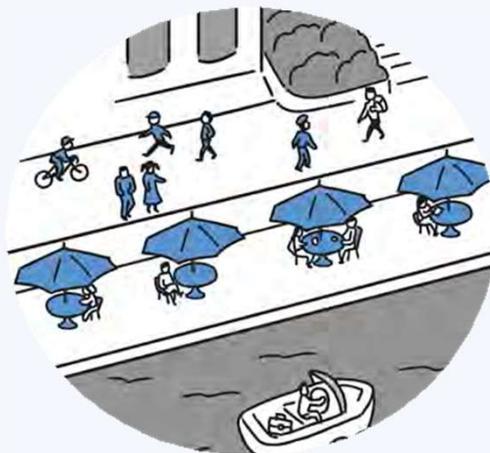
運河を活かしながらまちの回遊性を高め、

水辺を快適な親水空間に、屋外を、

まちで人々がおもいおもいに過ごせる憩いの場をつくれます。



Chapter. 1



こんなことしたい！

- 水辺の飲食店でくつろぐ
- 水辺の遊歩道でジョギングや散歩をする

そのために...

- ▶水辺に飲食店の誘致
- ▶水辺の遊歩道の整備

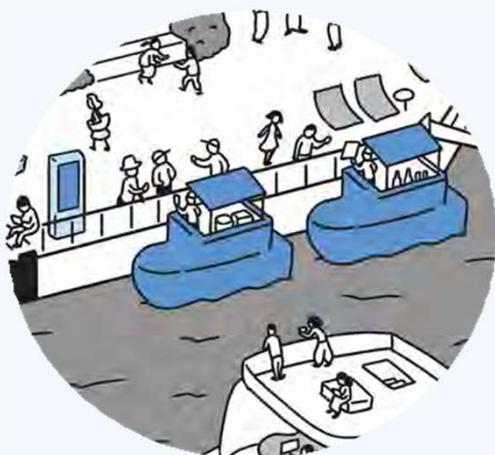


こんなことしたい！

- 水辺や広場に置かれた家具でくつろぐ・遊ぶ
- 水辺や広場でピクニックを楽しむ

そのために...

- ▶ベンチやテーブルなど家具の設置
- ▶水辺の親水空間の整備



こんなことしたい！

- 日常的に船で移動
- イベントや運航スケジュールをサイネージ等で知る

そのために...

- ▶船着場や時刻表等が分かる案内の整備
- ▶通勤船やイベント船の誘致



こんなことしたい！

- 季節の花を楽しむ
- 広場で青空ピクニックを気軽に楽しむ
- 芝浦らしいデザインのポスターやフラッグでイベントを知る

そのために...

- ▶花壇の整備
- ▶屋外空間の利用ルールづくり
- ▶屋外における広告設置のルールづくり

できることから始めよう

2030年までの  
アクションプラン



- 水辺にベンチやテーブルセットを置いて、みんなでくつろぐ
- 水辺や広場で花や緑を育て、季節の移ろいを感じる

- 水辺に仮説カフェを開設して、お茶をしながら楽しむ
- 散策路を整備して、ペットと一緒に散歩を楽しむ

- 青空ピクニックを開催して、みんなで気軽に楽しむ
- ウォーキングやランニングを楽しむ

Chapter. 2

# ひとが集いにぎわう 明るくひらかれたまち

多様なひと・もの・ことが行き交う都心で、

自分が心地よく感じるものを気軽に楽しめるまちを  
を目指します。

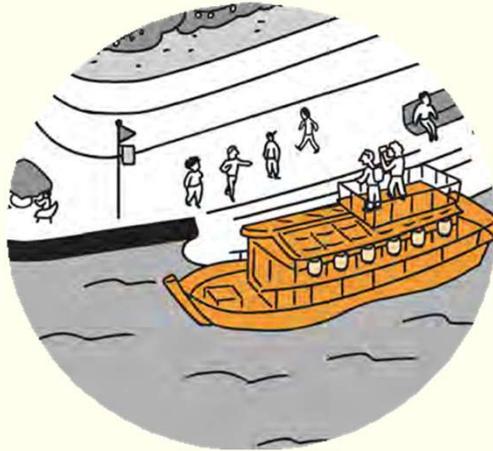
キッチンカーや屋外カフェ、マルシェや季節のイベント、  
運河クルーズやワークショップなど、まちの日常を楽しめる  
アイデアを持ち寄り、みんなで実現します。

まちに暮らす人も、働く人も、訪れる人も、  
人と人とのつながりやぬくもりが感じられ、

明るく開かれたまちをつくっていきます。



Chapter. 2

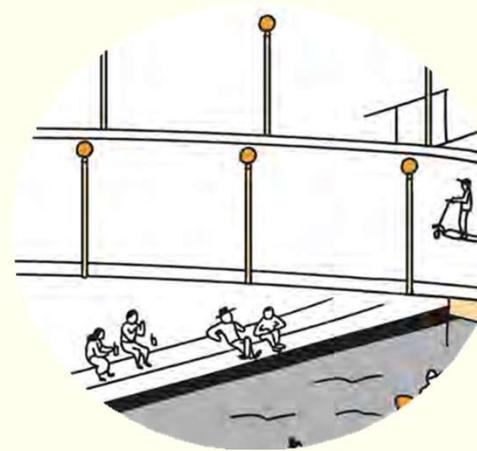


こんなことしたい！

- 舟を活用したイベントの実施

そのために...

- ▶ 舟運事業者との連携
- ▶ 舟運に関する学び・体験提供

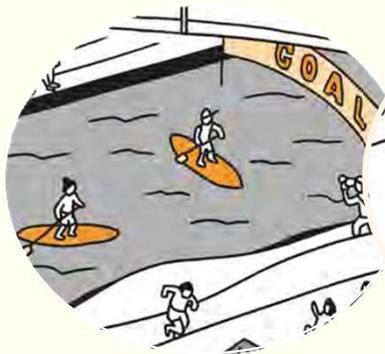


こんなことしたい！

- 夜も楽しんで歩ける遊歩道や船からも楽しめるライトアップ

そのために...

- ▶ 橋や水門へのライトアップ
- ▶ 地域団体との連携運営



水上スポーツ大会



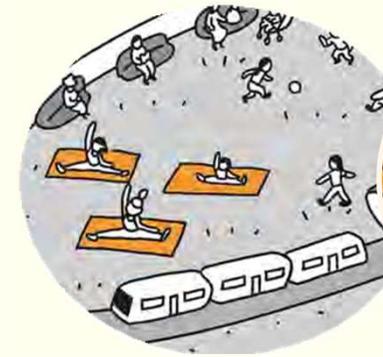
マルシェ

こんなことしたい！

- 広場や水辺などで様々な活動を楽しむ

そのために...

- ▶ 屋外空間や運河の利用ルールの整備
- ▶ 活動の主催者への運営や告知の支援



運動イベント



防災イベント

できることから始めよう

2030年までの  
アクションプラン



- スポーツイベントを開催し、子どもと一緒に体を動かす
- イルミネーションやライトアップを行い、夜景を楽しむ

- ヨガなどのイベントを開催し、芝生広場でリフレッシュする
- キッチンカーやポップアップストアを誘致し、食を楽しむ

- クリスマスマーケットを開催し、冬を堪能する
- 屋形船やクルーズ船による運河ツアーを実施し、舟遊びを体験する

Chapter. 3

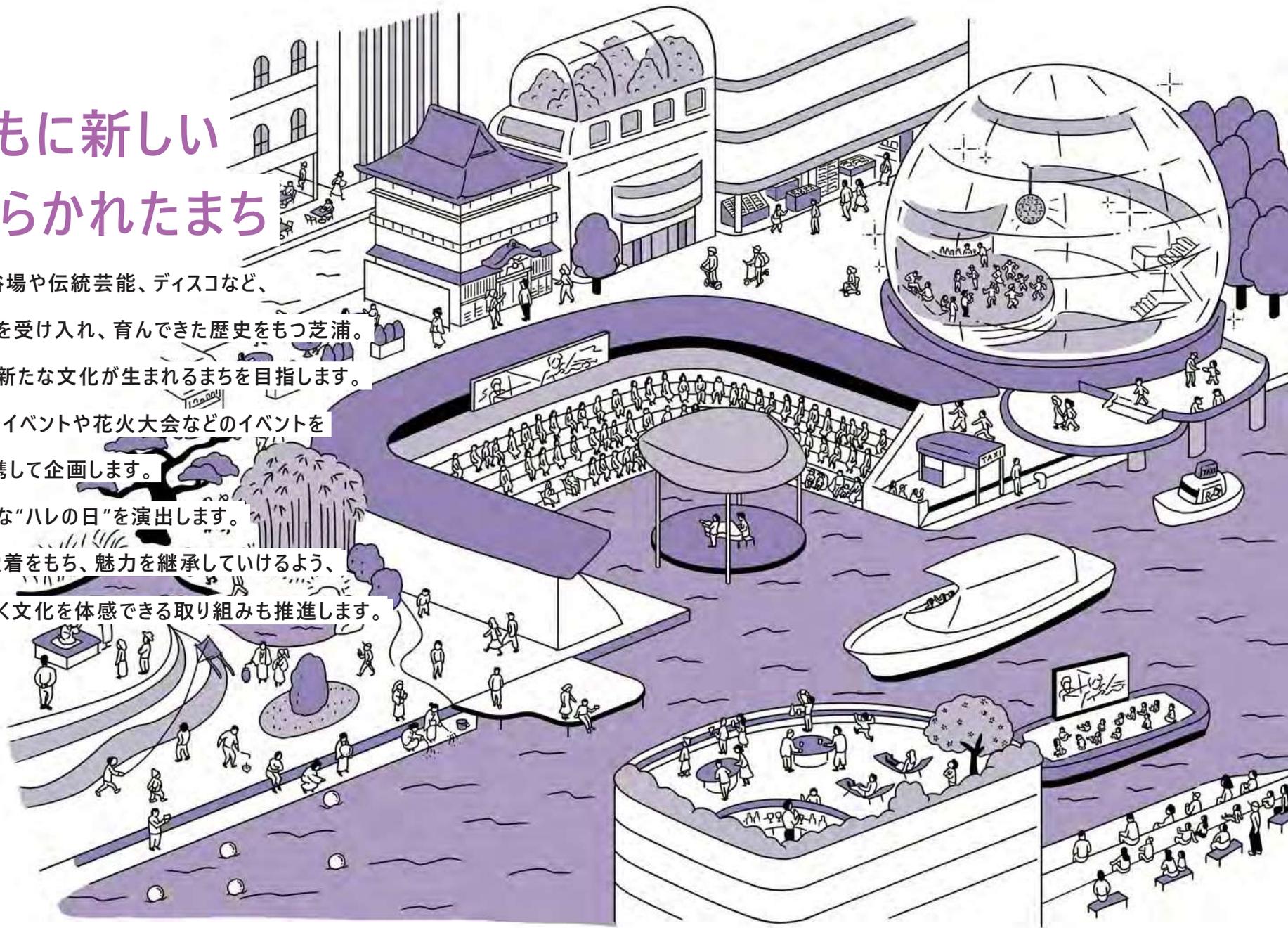
# 歴史とともに新しい文化にひらかれたまち

時代にあわせて海水浴場や伝統芸能、ディスコなど、  
多様な文化や価値観を受け入れ、育んできた歴史をもつ芝浦。  
その気質を受け継ぎ、新たな文化が生まれるまちを目指します。

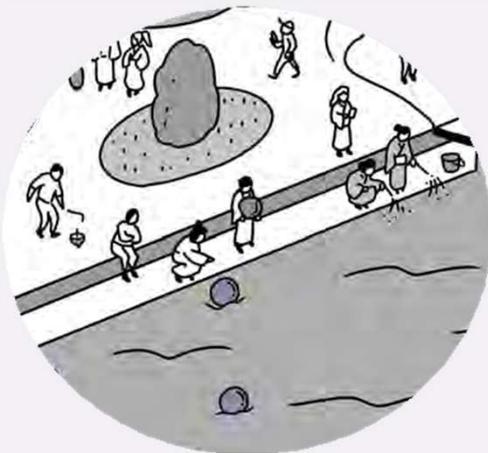
水辺を活かした多彩なイベントや花火大会などのイベントを  
多彩なパートナーと連携して企画します。

“いつも”とは違う特別な“ハレの日”を演出します。

まちの歴史や文化に愛着をもち、魅力を継承していけるよう、  
まち歴史やまちに根付く文化を体感できる取り組みも推進します。



Chapter. 3

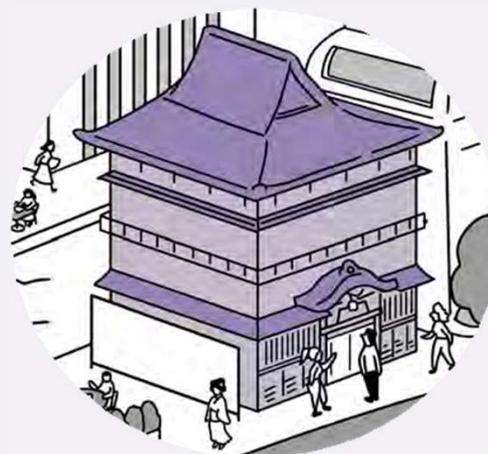


こんなことしたい！

- 芝浦の風物詩となるような運河でのイベントの実施
- 運河沿いでの花火

そのために...

- ▶ 水辺の利用ルールの整備
- ▶ 関係各所との連携構築

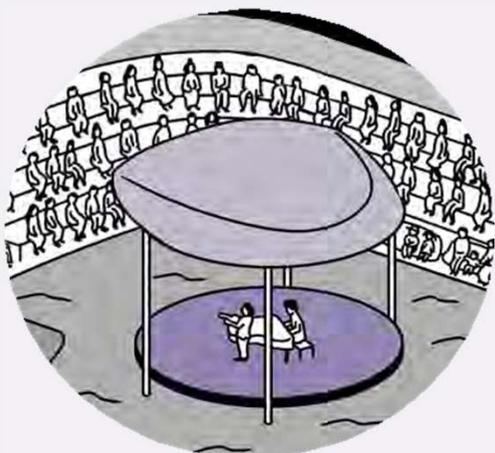


こんなことしたい！

- 伝統文化交流館で伝統芸能に触れ、地域の歴史を学ぶ

そのために...

- ▶ 文化を学び、発信する仕組みをつくる



こんなことしたい！

- 水上ステージのエンターテインメントを楽しむ
- ビルの屋上から水辺の夜景を楽しむ
- イベントが行われている船でクルーズを楽しむ

そのために...

- ▶ 水辺の親水空間の整備
- ▶ 関係各所との連携構築
- ▶ 船上イベントに対応した船の手配
- ▶ 水辺イベントにおけるルールづくり

できることから始めよう

2030年までの  
アクションプラン



- まちの歴史のパネルを展示し、まちへの理解を深める港区立伝統文化交流会館ツアーを実施し、伝統文化に触れる
- 伝統芸能が楽しめる場を設け、みんなで鑑賞する
- 音楽イベントやショーを開催し、夜の時間を楽しむ

- ディスコ文化の復活イベントを開催し、みんなで盛り上がる
- 水辺のライトアップを実施し、水辺を彩る

# 人々の営みが自然と環境に配慮するエコなまち

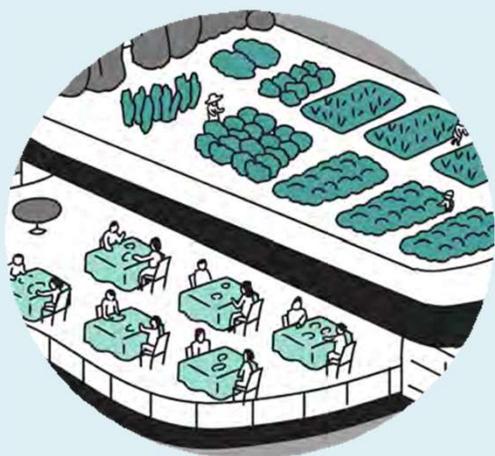
地球環境や生物多様性、自然災害に最大限に配慮し、持続可能な発展やにぎわいの創出を目指します。

ゴミ拾い・防災イベントの開催、住民参加型の菜園づくりなど、“できることから無理なく楽しく”をモットーに、集う人々の意識・行動変容を促す仕組みをつくります。

時に地域や組織の枠を超えて、循環型の営みや運河の水質改善、災害時への備え、脱炭素に向けた取り組みなどを実践し、自然を身近に感じられるエコで災害に強いまちを目指します。



Chapter. 4



こんなことをしたい！

- 資源循環
- 地産地消の推進

そのために...

- ▶ ポイ捨ての抑制活動
- ▶ 花植えイベントの実施



こんなことをしたい！

- エネルギーの地産地消の推進
- カーボンニュートラルの推進

そのために...

- ▶ グリーンエネルギー発電の実装



こんなことをしたい！

- 運河の水質浄化にむけた取組
- 運河のプール

そのために...

- ▶ 運河の水質調査
- ▶ 運河の水質浄化の取組



こんなことをしたい！

- 環境を守る活動の推進 (清掃活動、自然学習教室)
- 緑化の推進
- 生物多様性の保全

そのために...

- ▶ 月1回以上の清掃活動
- ▶ 生物観察教室の開催

できることから始めよう  
2030年までの  
アクションプラン



- ゴミ拾いイベントを開催し、楽しみながらまちをきれいにする
- 運河の水質調査を行い、改善に向けてみなで考える

- 清掃工場の見学ツアーを実施し、ゴミの分別や3Rについて学ぶ
- 講座等を開講し、サーキュラーエコノミーについて学ぶ

- 運河生物について学び、暮らしやすい環境を考える
- 資源のリサイクルを推進し、ゴミゼロを目指す

Chapter. 1 2050年に向けたロードマップ

まちの将来像	2030年	2040年	2050年 2047年：港区100周年
<p>都心でくつろげる 心地よい水辺のまち</p> <p>水辺にひらかれたまち</p>	<p>未来ビジョンの 共有と浸透</p> <p>水辺を中心とした日常的な “まちでのくつろぎ方”を体験し、 実現に向けた 具体的なデザイン計画が 策定されている</p>	<p>芝浦の文化として 定着、発信</p> <p>人々にとって 水辺が身近になり、 水辺でくつろぐ人が 増えている</p>	<p>地区外からも 人が訪れる</p> <p>いつでも気軽に くつろぐことが出来、 水辺で憩うことが 地区の文化になっている</p>
<p>ひとが集いにぎわう 明るくひらかれたまち</p> <p>人にひらかれたまち</p>	<p>どのようなイベントを 行いたい か みなと共有出来ている</p>	<p>多様な人々のニーズに 対応したイベントが 行われている</p>	<p>全ての人のニーズに応じた イベントが定期的に 開催されている 芝浦らしさを楽しむため 地区外からも人が訪れる</p>
<p>歴史とともに新しい 文化にひらかれたまち</p> <p>新しい文化にひらかれたまち</p>	<p>活かしたい、伝えていきたい 地区の歴史・文化を、 地区の人々と共有出来ている</p>	<p>地区の人々が芝浦の 歴史・文化に愛着を持ち、 イベントを発信している</p> <p>新たな文化を生み出す 仕掛けが出来ている</p>	<p>わくわくする刺激的な “都心の水辺のまち”として、 地区内外の人を惹きつけている</p>
<p>人々の営みが自然と 環境に配慮するエコなまち</p> <p>みんなで環境を守るまち 自然を身近に感じるまち</p>	<p>“運河の水質改善” “資源循環” “様々な生物が生息できる環境づくり” それぞれの目標を、地区の人々や 連携パートナーと共有出来ている</p>	<p>楽しみながら環境に 配慮する暮らしが普及し、 持続的に取り組むために 必要な体制、仕組みが出来ている</p>	<p>子どもから大人まで、 楽しんで環境配慮に 取り組む地区になっている</p>

Chapter. 2 2050年に向けたアクションプラン

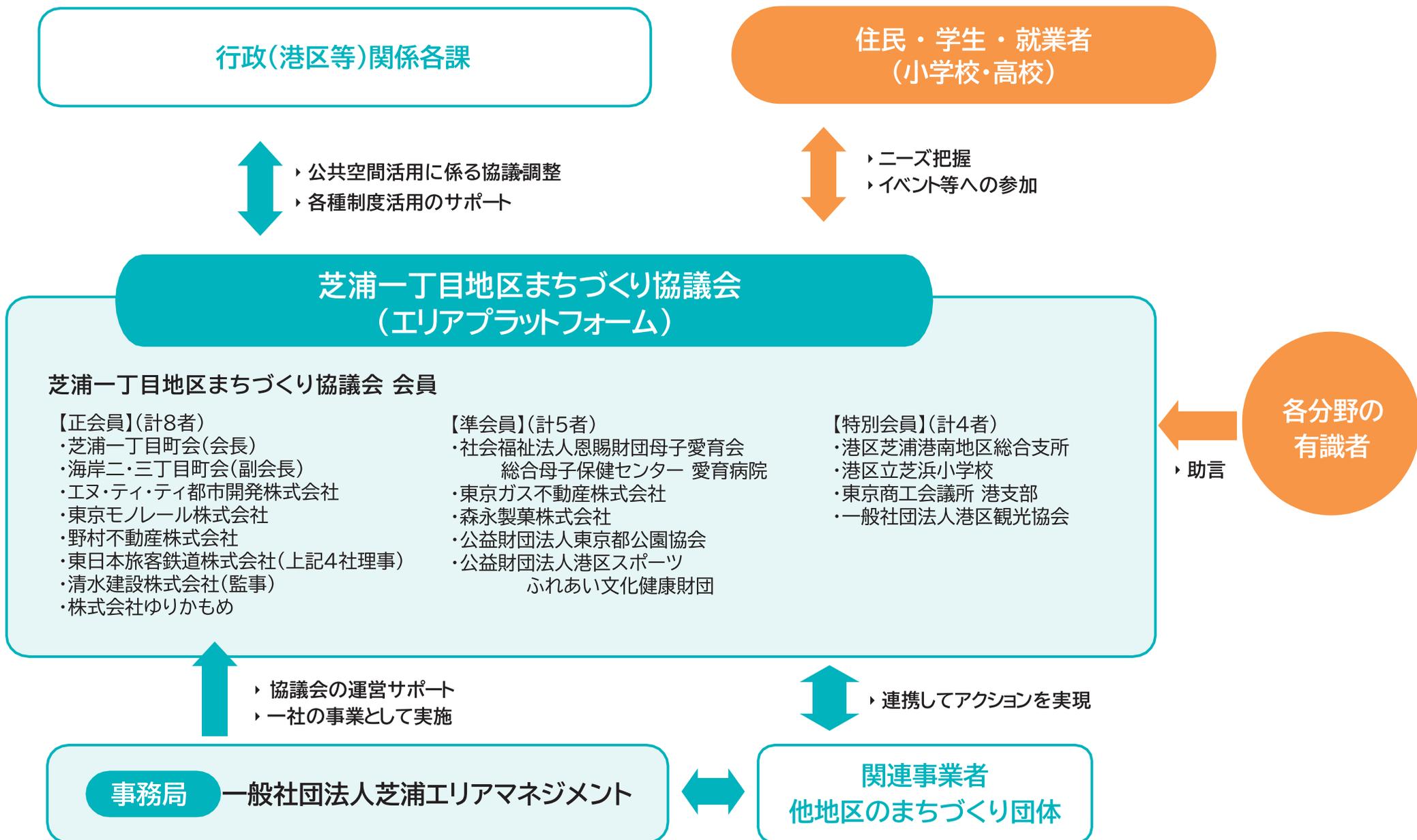
まちの将来像	～2030年	2030～2040年	2040年～2050年
<p>都心でくつろげる 心地よい水辺のまち</p> <p>水辺にひらかれたまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運河沿いに家具等を設置、くつろぎ方を試行する</li> <li>●短期的にキッチンカーを出店する</li> <li>●水辺でくつろぐ様子をSNS等で発信する</li> <li>●家具等の管理・運用ルールを検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運河沿いにデザインされた家具等を設置する</li> <li>●水辺に店舗や遊歩道など新たなくつろぎ空間を整備する</li> <li>●水辺でくつろぐ様子が発信される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安心して水辺で過ごせる水辺空間の整備</li> <li>●外部から人が訪れるためのイベントや発信を行う</li> <li>●水辺でくつろぐ人同士のコミュニティをつくる</li> </ul>
<p>ひとが集いにぎわう 明るくひらかれたまち</p> <p>人にひらかれたまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民地や公開空地で定期的にイベントを開催する</li> <li>●行政の許可が必要な場所では、社会実験的にイベントを開催する</li> <li>●イベント開催後に振り返りを行い、住民・就業者が屋内外で行いたいことを検証する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民、就業者に加え、来街者も意識したイベントを、地区内の様々な場所で定期的で開催する</li> <li>●イベント開催後に振り返りを行い、イベントの実施計画を立てる</li> <li>●イベントの企画者・運営者を増やす取組を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●イベントの企画者、運営者を増やす仕組みを導入し、多くの人のニーズに応じたイベントを定期的で開催する</li> <li>●様々なイベントが実施されている芝浦の魅力を地区外に積極的に発信する</li> </ul>
<p>歴史とともに新しい 文化にひらかれたまち</p> <p>新しい文化にひらかれたまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協議会メンバーで地区の歴史・文化を知り、どのように伝えていくかを考える</li> <li>●伝統芸能など地区の文化を活かしたイベントを開催する</li> <li>●地区の歴史・文化を知らせる活動を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区の歴史・文化を発信する</li> <li>●地区の歴史・文化を活かした名物をつくる</li> <li>●新しい文化を生み出す場の創出を検討し、担い手を呼び込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい文化を生み出す活動を支援する</li> <li>●これまでの文化と新しい文化を融合した“芝浦ブランド”をつくる</li> </ul>
<p>人々の営みが自然と 環境に配慮するエコなまち</p> <p>みんなで環境を守るまち 自然を身近に感じるまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●芝浦における課題・取組、他地区の好事例を知る（運河の水質改善方策や生態系を知るWS、プラスチックの再利用を実施するキッチンカーの出店等）</li> <li>●イベントに合わせて環境活動を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境活動の担い手を増やし、持続的な体制や仕組みを構築する</li> <li>●価値観として浸透、ライフスタイルとして普及させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時代に合わせて体制、活動内容を更新する</li> <li>●他地区にも応用できるような取組事例を“エコな水辺のまち”として発信する</li> </ul>

Chapter. 3 2025年度アクションプラン案

	①昼ピクニック	②夜ピクニック	③手持ち花火	④身体動かす	⑤身体動かす	⑥船ツアー	⑦歴史・文化	⑧歴史・文化
実施目的		想定ターゲット(住民、子ども、ワーカー)が求めるイベントを把握する					活かしたい、伝えていきたい地区の歴史・文化を知る	
	公共空間や屋外空間の活用方法を検証する					水辺を楽しむ機会を増やす		
	イベントに併せて環境配慮の取組みにふれる機会を設け、環境活動の目標の検討に活かす							
協議会の立場(案)	協力	主催	主催	協力	主催	協力	主催	主催
内容(案)	ピクニックセット(レジャーシート、弁当)	ピクニックセット(レジャーシート、弁当)	手持ち花火、軽食提供	台場～芝浦ルートのウォーキング、キッチンカー出店など	ヨガなどの身体を動かすイベント	地域を学ぶ運河を周遊する船ツアー	芝浦の伝統芸能に触れるイベント	芝浦の歴史を知るスタンプラリー
時期(案)	3月 昼間	5月or7月 夜	8月 夕方・夜	10月 昼間	10～11月 昼間	9月下旬 昼間・夜	11月 夕方～夜	11月～3月頃 夕方・夜
対象(案)	住民・子ども ワーカー	ワーカー 住民	こども・住民 ワーカー	住民・子ども ワーカー	ワーカー	住民・こども	住民 ワーカー	ワーカー 住民



## Chapter. 4 実施体制



# 水辺

・運河

# 海辺

## 豊かな食を提供した海

芝浦とは「芝の前面の海」という意味。江戸時代までは現在のJR線のあたりが海岸線でした。「雑魚場」という地名に名残があるように、江戸時代は漁業が盛んで、魚市場や魚問屋、漁業集落が集まるまちでした。当時の芝浦の海は遠浅で、魚介類の棲息にも適しており、貝類、うなぎ、芝海老、カレイ、黒鯛、イカ、穴子、ハマグリなども獲れたと記録に残っています。また、明治時代になると海苔の養殖が行われ、昭和初期までは漁業が盛んな時代が続きました。



上右「新撰東京名所図会第三十三編（芝浦之景）」  
出典：法政大学江戸東京研究センター所蔵

左「東海道名所之内 芝浦風景」  
出典：Tokyo Museum Collection  
(<https://www.edohakuarchives.jp/detail-10752.html>)

右「東都名所年中行事 七月高輪廿六夜」  
出典：Tokyo Museum Collection  
(<https://www.edohakuarchives.jp/detail-7450.html>)



上「芝浦の月」  
出典：Tokyo Museum Collection  
(<https://museumcollection.tokyo/works/6575435/>)

下「海水浴を楽しむ人々（芝浦水泳所絵葉書 長谷川文三郎氏提供）」  
出典：港区立郷土歴史館所蔵

## 風光明媚な海辺の名所

風光明媚な海辺の名所としても知られ、江戸時代には潮干狩りやお月見などが行われました。人々が楽しむ様子は、浮世絵や風景画などにもいきいきと描かれています。このうちお月見は、砂浜にむしろを敷き念仏を唱えて月の出を待つという純粋な姿だったものが、次第に物見遊山に変わり、夕涼みのお月見として一般化。芝浦界隈は、茶店が並ぶ一大リゾート地となっていきました。明治期には、現在の重箱堀あたりに都内初の海水浴場が開かれました。鐘ヶ江清朝という蘭方医が東京府知事から許可を得て開設したもので、当時は病氣療養や健康増進が目的でした。

## 現代まで続く舟遊び

江戸時代の初頭までは、舟遊びは将軍や大名などの娯楽でしたが、河川の整備が進むと裕福な商人らも楽しむようになりました「屋形船」という言葉はこの頃から使われていたようです。17世紀中頃には大型の舟やきらびやかな舟も登場。その後、幕府により儉約令が出されて舟は小型で質素なものになりましたが、町人たちは舟遊びを楽しみ、19世紀初頭には500～600艇にもなりました。漁師の副業でもあった屋形船は庶民の間にまで広がり、太平洋戦争により一時は途絶えたものの、戦後に復活。バブル期には人気が出て、現在まで続く庶民の娯楽となっています。

# 伝統文化

## 運河沿いの料亭・旅館

明治期には多くの料亭や旅館が開業。客が集まるのに伴い芸妓屋の需要が高まり、花街としても栄えました。一方、明治末から始まった海岸埋め立て工事により海が遠くなり、景色も殺風景に。次第に客足が遠のき、経営難に陥る店が増えました。その後、花街は埋立地に移転。料亭65軒、芸妓置屋55軒、芸妓175名が移ったと当時の記録にあります。移転先では花街の全盛期を迎えます。関東大震災では被害が少なかったため、他の被災地域からの業者の移転

が増加。復興資材の輸送により芝浦岸壁は船舶・物資輸送業者でにぎわい、花街や飲食店は大盛況となりました。さらに、芝浦製作所や東京瓦斯の移転、ヤナセなどの振興産業の設立により、花街としてさらに発展していききました。



戦前期の様子  
出典：馬橋広司氏蔵



上3点出典：(公財)東京都公園協会 みどりの図書館東京グリーンアーカイブス

## 旧芝離宮恩賜庭園（楽寿園）

江戸初期に小田原藩主・大久保氏の上屋敷経営に伴って造られた大名庭園で、当時は「楽寿園」と称されました。その後、清水家、紀州徳川家と伝わり、明治8(1875)年に宮内省の所管に移り、翌9年に芝離宮となりました。大正13(1924)年に皇太子の御成婚記念として東京市に下賜され、同年「旧芝離宮恩賜庭園」と名称が変更されました。江戸時代の大名庭園の典型である回遊式築山泉水庭園であり、海水を引き入れた潮入の池を中心として構成されているのが特徴。江戸期の大名庭園の作庭技法を伝える優秀な庭園として、昭和54(1979)年に文化財保護法に基づき名勝に指定されました。

## 伝統文化交流館の歴史

昭和11(1936)年には、料亭・置屋・待合茶屋を取りまとめる三業組合の事務所(見番)として協働会館(現・港区立伝統文化交流館)が建設されました。しかし太平洋戦争中には疎開・移転を余儀なくされ、三業組合も解散。協働会館や周辺の料亭は港湾労働者の宿泊施設に転用されます。戦後、昭和22(1947)年に東京劇場で開催された東京芸妓公演会には芝浦芸者も出演していますが、年々料亭の数も減っていき、花街文化も衰退していききました。

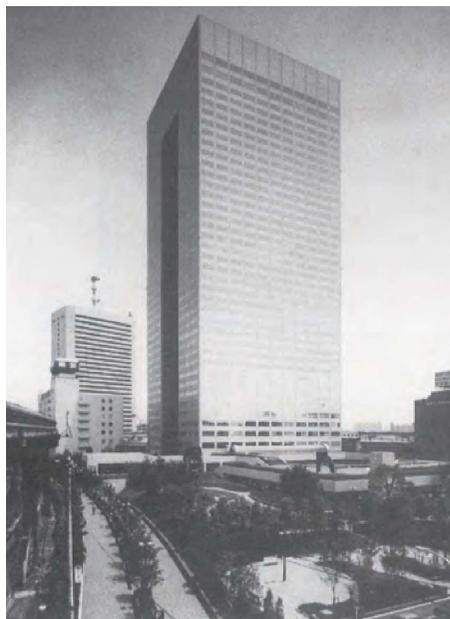


上 出典：港区立伝統文化交流館 下 2025年現在

# 産業

## 企業の創業の地

江戸時代の終わり頃から、東京湾内の造成工事や街の都市化にともない漁業は衰退。次第に芝浦のまちは、産業や物流の拠点へと変化していきました。明治7(1874)年には東京ガスの前身となる瓦斯(ガス)製造所が操業を開始。明治18(1885)年に民営化され、東京瓦斯会社芝製造所となりました。太平洋戦争後には東京ガス総合研究所が建設され、かつて研究所があった芝浦公園には土地の歴史を残すためにガス灯が設置されています。明治15(1882)年には東芝の前身である田中製造所が工場を建設。明治26(1893)年には、社名を芝浦製作所と改め、昭和14(1939)年には東京電気と合併し日本を代表する総合電機メーカー・東京芝浦電気株式会社となりました。また、大正9(1920)年には、急成長を遂げた自動車販売事業者・ヤナセが新工場を建設しました。



左「昭和59(1984)年完成 東芝ビル」  
出典：わが町 芝浦一丁目町会七十周年史

上右：東京ガス総合研究所外観昭和32(1957)年頃  
下右：芝浦公園のガス灯  
上2点出典：東京ガス ガスミュージアム



上 汐留駅～芝浦駅(現在の日の出埠頭)を走る貨物列車  
昭和10年(1935) 提供：東京都港湾振興協会  
下左 芝浦、日の出線 提供：東京都港湾振興協会  
下右 日の出埠頭の竣工式の情景 提供：東京都港湾振興協会



## 水運・陸運の成長

明治40年代には芝浦の埋め立てが進み、明治44(1911)年にはJR田町駅が開業。大正14(1925)年には水運の拠点となる日の出埠頭が完成し、昭和5(1930)年には、汐留駅～芝浦駅(現在の日の出埠頭)を結ぶ貨物専用鉄道が開業しました。高度経済成長期には石炭、塩、米、小麦、生鮮食品などを運搬し、その取扱貨物量は170万トンにも達しました。昭和50年代に入ってからコンテナ船やフェリーなどの輸送革新が進み、陸上貨物は鉄道輸送から自動車輸送に転換しました。高度経済成長期には高速道路(首都高)が建設され、平成7(1995)年には新交通ゆりかもめが開通し、利便性が向上しました。

## エンタテイメント

## 水上ホテルと南極探検隊

芝浦は、新しい文化や娯楽が生まれてきたまちでもあります。明治40（1907）年には、日露戦争で使用されていた大型汽船「ロセッタ丸」が芝浦岸壁に係留し、「ロセッタホテル」として開業。日露戦争の戦利品ということで話題を呼び、宿泊客が殺到しました。明治43（1910）年には、日本初の南極大陸上陸を目指す白瀬探検隊を乗せた「開南丸」が芝浦を出航。さまざまな困難を乗り越え、2年後に南極大陸上陸に成功しました。



上 ロセッタホテル  
出典：港区立郷土歴史館所蔵

下 開南丸  
提供：白瀬南極探検隊記念館

## 初のサッカー国際試合とプロ野球球団

大正6（1917）年には、日本サッカー界初となる国際試合「第3回極東選手権大会」が、現在のゆりかもめの日の出駅と芝浦運河の間に設けられたサッカー用仮設グラウンドにて開催。当時、日本で最強と評判だった東京高等師範学校が単独チームとして出場しました。さらに、昭和11（1936）年には日本初のプロ野球球団「日本運動協会」が芝浦で発足。芝浦球場を本拠地として活動しました。

## 一斉を風靡したディスコ文化

1980～1990年代には、ウォーターフロントブーム、ダンスブームにより、物流倉庫を改造したディスコやクラブが人気に。バブル期に一世を風靡した「ジュリアナ東京」「ゴールド」「インクスティック芝浦」をはじめ多くの店舗が開業し、芝浦は多くの若者でにぎわいました。



上左 ゴールド（ディスコ）店内 写真提供：HOUSE OF GOLD  
上中 ゴールド（ディスコ）店内 写真提供：HOUSE OF GOLD  
上右 ゴールド（ディスコ）店内 写真提供：HOUSE OF GOLD  
下右 ゴールド（ディスコ）エントランス写真提供：HOUSE OF GOLD

芝浦一丁目地区まちづくり未来ビジョン  
2025年3月 初版発行

発行  
芝浦一丁目地区まちづくり協議会  
港区芝浦港南地区総合支所

協力  
一般社団法人芝浦エリアマネジメント



※本冊子の無断転用・複製を禁じます。